



Le Monde de Keishin

「二生懸命学ぶ手法は、やがて習慣として定着する」



Abeunt Studia In Mores

CONTENTS

- | | | | |
|--------|----------------------------|----------|---|
| P. 2 | コラム | P. 8・9 | 進学羅針盤 |
| P. 3 | 19期生へのメッセージ | P. 10・11 | 同期の慶進 |
| P. 4・5 | iPadのある慶進ライフ
～iPadは文房具～ | P. 12 | La Photo de Keishin
お知らせ・大学合格実績
小さな本箱 |
| P. 6・7 | 俺たち ICT Lab | | |



Abeunt Studia In Mores

「一生懸命学ぶ手法は、やがて習慣として定着する」

ホメロス、カーリダーサ、松尾芭蕉、魯迅など、洋を問わず、時を問わず、人の心を揺さぶる作家は数多います。先日長逝した石原慎太郎もそんな作家のひとつでしょう。一橋大学在学中に『太陽の季節』で芥川賞を受賞すると、『聖餐』や『弟』などを生み出しました。自身で「職業は石原慎太郎」と言っていたように、作家としてだけではなく、映画監督として、政治家として、時代を大きくにぎわせました。今、話題となっている、ある雑誌に掲載された石原慎太郎の遺稿「絶筆」を読むと、彼が情熱あふれる知識人であったと改めて感じられます。

昭和の小説家ですから、家ではきつと和服を着て、原稿用紙に万年筆で執筆していたのだらう、と勝手に思っていました。しかし、彼の執筆活動を支えたのはワープロ「ルポ」でした。東芝から発売された日本語ワープロ専用機の先駆的な機種で、三十年以上使い続けていたそうです。ひらがな入力ができるというのが、その理由です。ローマ字入力のワープロは彼にはなじまなかったのでしょう。彼にとっては「ルポ」が最良の文房具だったのです。

誰にでも自分の学習方法、自分の文房具というのがあります。一生懸命学ぶときに使う文房具が、自分にとって最良の文房具となることでしょう。そう考えると、紙と鉛筆にこだわっていた自分が恥ずかしくなります。紙と鉛筆が普及したのは、せいぜいこの1世紀のことです。それ以前は、口承、パピルス、羊皮紙、竹簡などさまざまなものが使われていました。その時々で知恵が生み出され、知識が蓄えられてきました。ですから、紙と鉛筆に限らず、自分が使い込んでいるものが最良の文房具であり、学習の道具です。

では、慶進生にとっての最良の文房具とはなんでしょうか。もちろん、紙と鉛筆も捨てたものではありません。だって、定期テストも大入試も紙と鉛筆です。しかし、Padも慶進生にとっては最良の文房具となっています。人が想像できないほどに使いこなし、効果的に日々の学校生活に活用しています。Padが慶進生の新しい学習の世界を作り上げています。本誌ではそんな「慶進の世界 (Le Monde de Keishin)」をお伝えします。

6年中高一貫教育

英知を尽くし、未来を切り拓く。

慶進では生涯にわたって役立つ学力を身につけるために、6年間を2・2・2の3つのステージで構成しています。勉強のおもしろさを知ることから始まり、生徒たちが主体的に学習に取り組み、学内外の様々な体験活動で、豊かな人間性と、ともに生きる力を育み、次世代のリーダーとなる人材を育てます。

1st Stage	2nd Stage	3rd Stage
基礎学力養成期	実力充実期	発展応用期
中学1年生	中学2年生	中学3年生
	高校1年生	高校2年生
		高校3年生

慶進生の生活のススめ

令和四年一月二十七日、令和四年度慶進中学校生徒会長選挙が行われ、17期生白土隆太郎さん(中三)が生徒会長に選出されました。新生徒会長が慶進生の生活について慶進の制服に袖を通す19期生へメッセージを送ります。

生徒会長 17期生

白土 隆太郎(中三)



19期生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんはこれから沢山の新しいことをしていくと思います。例えば、慶進中学校にはたくさんの方の行事があります。まず、1学期には慶進祭があります。各クラス、または学年で協力して、展示物を作ります。企画から当日の運営まで自分たちでします。2学期になると、スポーツフェスティバルがあります。3色に分かれて、3学年が一致団結して、優勝を目指して戦います。毎年行われるソーラン節では、全学年全員で協力して綺麗に揃った迫力のある踊りを披露します。それから、合唱コンクールもあります。クラスごとに力を合わせて、より綺麗に歌えるように練習し金賞を目指します。昨年もコロナの影響で練習時間が少ない中で、全クラスが素晴らしい歌を披露しました。他にも、クラスマッチやスツチ大会など、行事が多いです。行事以外にも新しい経験は多いと思います。慶進中学校では算数が数学になり、代数、幾何の2つに分かれて進んでいます。社会は地理と歴史に分かれて、国語も古文と現代文に分かれて、理科は化学、生物、物理、地理に分かれます。さらに「英語」も本格的に始まります。今までよりも難しい勉強や、そして部活動など今よりも大変なこと

が増えて忙しくなると思います。その中で大切なことは何だと思えますか？それは「規則正しい生活をする」とです。なんだそんなことか、と思う人もいるでしょう。ですがこれが意外と難しいのです。中学校に入ると先ほど述べたように部活が増えたりと今までよりも生活がハードになります。今までよりも遅く家に帰ることも、夜遅くまで勉強することも多くなるでしょう。自然と就寝時間が遅くなり、睡眠時間も減っていくかもしれません。このような生活は体にもよくないです。それが原因で授業に集中できなくなったり、体調を崩したりしては元も子もないですよ。私は「私はそのうち」と思っている人もいます。が、実際に中学生の平均睡眠時間は小学生に比べて1時間以上短くなるというデータや12時以降に寝る人も小学生に比べて3割弱増えているというデータも存在します。

「勉強を頑張る」といった目標と比べて、規則正しい生活は当たり前なことゆえに、二の次になりやすいです。それではどうすればよいのでしょうか。重要なのは自分で気を付けるということです。ですが、「気をつける」というのは曖昧なので「なあなあ」になってしまいかもしれません。ですので慶進生は自分でルールを決めます。ルールは「絶対に深夜0時には寝る」や「朝7時には必ず起きる」という具体的な数字で設定します。ここでルールを難しいものに設定しても意味がありません。あくまでも、継続して守り続けることが目的なのでそうできるような目標がよいでしょう。

ここまでで話した通り、少しでも「規則正しい生活をする」ということを頭に入れておくだけでこれからの学校生活がよりよいものになっていきます。規則正しい生活を意識しながら、楽しい中学校生活を送ってみてはどうでしょうか。よりよい中学校生活を送るために頑張ってください。

19期生へのメッセージ

中学校1年1組 担任

武富 有朋 教科：数学

教科の魅力

式や図に内在する仕組みを見つけたり、その仕組みを操ったりできるようになります。できることがドンドン増えていくことにワクワクしましょう！

入学おめでとうございます。仲間や先生、保護者とともに、これからの6年間を充実させ続けましょう。楽しいけれど、楽しい未知を！



中学校1年2組 担任

齊藤 光伸 教科：理科

教科の魅力

身の回りのものは何からできているのか？どのように動いていくのか？など、理科は未来の世界を予測する学問といえるかもしれません！

入学おめでとうございます。ドキドキの中学生ですね。これからの6年間は自分の未来を考える重要なときです。楽しみながらいろいろなことにチャレンジしていきましょう！



特集:iPadのある慶進ライフ~iPadは文房具~

慶進中学校・高等学校では2016年にGoogle for Education (現Google Workspace for Education) を導入し、2018年に校舎のWi-Fi環境を整備するとともに、KS ICT EDUCATION POLICYを掲げてICT教育を推進してきました。そして、2019年、現中高一貫コース高校生からは入学時に全員iPadを購入し、iPadのある慶進ライフが始まりました。そんな慶進ライフもすでに4年目を迎え、iPadは特別なものではなく、鉛筆やノートと同じように、日常の文房具の一つとなりました。そんなiPadのある慶進生の日です。

Morning



溝岡 佳大

僕の毎朝のルーティンは、朝起きてまずiPadを開いて、FeelnoteとClassroomを確認することから始まります。今日の行事や提出物、今日は何の日、持ってくるべきもの、を担当の野村先生が配信しています。週明けの月曜日には、今週の予定も教えてください。僕は毎朝それらの情報を確認してからその日のスケジュールを決めています。これが僕の毎朝ルーティーンです。

朝のSHR



原田 董華

まず学校に来て朝学として、朝の会が始まるまでiPadのMONOXERという暗記アプリを使って、主に英単語の学習をします。私は暗記が苦手ですが、MONOXERは、自分が何を覚えていてあと何が覚えられていないのかを分析して問題を出题してくれるので、自分が苦手なところを重点的に覚えられて、効率的に学習を進められます。

1 時限; 美術



江川 和希

私は美術の授業でiPadをつかっています。何か作る時にデザインや構図などを調べ、イメージを膨らませることができます。また、jamboardやメモなどで簡単に下書きをすることもできます。

2 時限; 英語



山中 優

僕は英語の授業中、スピーキングなどにボイスメモ、Classroomを使います。授業では、単語帳を活用して、単語の学習をしたりする事があります。その時仮に単語帳を忘れたとしても、Quizletを使えば単語帳の学習セットがあるため、学習に困りません。また、意味が分からない単語を、英辞郎を使ってすぐに調べることができます。このように、英語の授業にもiPadを活用しています。

3 時限; 国語



長谷川 莉沙

国語の時間に班のメンバーと協力して一つの物語を書きました。Googleドキュメントだから、同時に自分の担当部分を執筆できるし、家に帰ってから取り組むことができたので、完成させることができました。完成した作品は他のグループと共有するためにGoogleスプレッドシートにドキュメントのURLをリンクを張ってまとめました。これにより簡単に他グループの作品を読んで、とても楽しかったです。

4 時限; 歴史



永見 綾音

事前に授業プリントのPDFがGoogleドライブで共有されます。そして授業ではGoogle Meetを使い、画像を共有しながら説明されるので、理解しやすいです。最後にFeelnoteで授業の振り返りのプロジェクトが出され、授業の復習を行えるので、より考えが深まります。このように歴史総合の授業では、iPadを活用して授業が行われるため、ICTスキルも身につく、それと同時に授業内容も身につくので一石二鳥です。

クラスマッチ



益村 恵未

配信は、アリーナで行われている試合をビデオカメラ2台で各コートで撮影し、Zoomという会議用アプリを使って、生徒たちがいる各教室に配信するという形で行いました。Zoomを使うことで、教室にいる生徒がいつでも2つのコートが好きに切り替え応援できるようにしました。このように、行事に合わせて配信の形を変え、多くの人を楽しめるように頑張っています。



西村 大平

僕がICT Labの一員として最初に配信に携わったのは合唱コンクールでした。突然、撮影係を任せられ、最初は操作が覚束なかったですが20~30分経ったら慣れてきてそれなりに操作ができるようになりました。その後の配信についても撮影係を続けていましたが、慶進としても配信は始まったばかりなので機材も限られており撮影するのは大変でした。今後も経験を活かし頑張っていこうと思います。



新海 にこ

アリーナ全体を見渡せる3階から試合を撮影しました。撮影もがんばりましたが、全体を見渡せる特等席から観戦できたのでとても楽しいし、ラボに入らなければ見られない景色だったので嬉しかったです！だんだん配信用の機材の名前と使い方がわかってきたので、次は自分から何をすべきか考えて配線をしたいです。配信では、トラブルと隣り合わせです。もし、何かトラブルが起きてしまったら、臨機応変に対応できるように頑張ります！



福岡 綾乃

クラスマッチの3日前くらいからICT labのメンバーと話し合ったり当日は朝早くから配線準備をしたりととても忙しかったです。当日配信の時は自分の試合とlabの出番を確認して出番に遅れないようにしました。

部活動；科学部



小田村 龍英

科学部では、毎週金曜日にある研究発表会においてGoogleスライドを使ってより良い研究成果をみんなに紹介します。もしも班のメンバーが用事などでいない時もGoogleドキュメントを使ってある程度の時間を決めていれば会議をしたり相談したりして研究を進められます。そして、私の所属している班ではプログラミングのためのサイトを頻繁に使います。科学部のメンバーはiPadを活用しています。

家庭学習



秋橋 遼人

よく学校から帰ってきて夜ご飯を食べたりお風呂に入ったりした後や間にMONOXER、Quizletといった暗記系のアプリをしています。少しの時間でもパパッとできるからかなり便利です。隙間時間にやるだけでもかなり覚えられます。ちゃんと毎日やらないとアプリの画面にしっかり「3日遅れ」とか出るので毎日やらなきゃってなって今ではしっかり習慣になりました。本や紙で覚えようとしていた時よりも断然覚えられるようになりました。

La Classe de Keishin

iPadはディベートに欠かせない

僕たちは、毎年3学期の国語の授業で「ディベート」をしています。ディベートとは「論題」と呼ばれるテーマについて、2つのチームが賛成・反対の立場に別れて議論を行うものです。たとえば、今年の授業では「日本は選挙の棄権に罰則を設けるべきか」という論題でディベートを行いました。それぞれのチームは、なぜその論題に賛成・反対するのかを論理的に述べ、「ジャッジ」と呼ばれる審判を説得します。授業では、クラスを4~5人ずつに分けてチームを組んで準備します。また、異学年交流戦では、学年の枠を越えて試合を行います。

このディベートの準備に欠かせないのがiPadです。たとえば、発表原稿を作る際には、Googleドキュメントというアプリを使い、チームみんなで原稿を共同作成します。このアプリでは、チームメイトが書いている原稿を、リアルタイムで見ながら編集することが出来ます。そのため、家にいるときでも、チームメイトと協力して作業することが出来ます。

また、資料が必要などときにはすぐに検索することができ、調べた資料はGoogleドライブというアプリを使って、チームメイトと共有したり、フォルダで分類したりできます。また試合本番も、必要な資料や原稿、タイムなどをすべてiPad一つで見ることができ、スムーズに議論できます。

このように、ディベート学習でiPadを使うことによって、作業効率が上がります。議論を深めることができます。

新一年生のみならず、iPadを活用してディベートを楽しんでください。

16期生 山中 駿

俺たちICT Lab

四年前に、小田村奏吾さん(高三)、高椋優気さん(高三)、小出琳太郎さん(高三)がしり始めたのが「Lab」です。その後、伊藤岳さん(高三)、若松優也さん(高三)が加わり、正式に認められて、後輩たちも増え、「CT」を駆使して学校生活をよりよいものにしていくと活動しています。とりわけ新型コロナウイルス感染症拡大により、思うように開催できない学校行事では大きな役割を果たしてくれました。そんなCT Labの行事での活動を紹介します。

【慶進祭】

小田村奏吾

私たちにとって慶進祭とは未開の領域に踏み入れることと同義でした。慶進祭以前にZoomやmeetでやっていた配信もパソコンにカメラ用のiPhoneを接続し、YouTubeで配信する形にまでは進歩しました。しかしながら、広いステージの映像を演出も含めた上で配信をするということは経験がなく初めての試みだったからです。

いたかったのです。最終的にカメラの映像をパソコンのなかに取り込む「キャプチャーカード」、そして複数の映像を切り替える「スイッチャー」、この機能併せ持ったBlack Magic Designの“Aem”を学校に買ってもらうことでその目標は達成できました。

いざ、リハーサルをしてみるとステージ上の演者たちの動きや映像放映など、カメラの画角を変えたり映像を切り替える操作が多いことに気づかされ、私自身、毎日リハーサルに付きつきりだったことを覚えています。どのくらいの画角で撮った方がいいのか、スポットライトをどのタイミングであてるのかなど、毎日眠れない日々

が続きました。慶進祭前日を迎え、準備に取り掛かるとやはりトラブルが発生します。機器同士の「相性問題」でした。初めての経験ということもあってこれを発見するまでに実に2時間の時間がかかり、また演者に早く音を流すよう催促され、冷や汗でした…。

【体育祭】

小出琳太郎

そんなこんなで当日はカメラやスポットライトに正確に指示を出すこともでき、特に大きなトラブルもなく(途中で勝手に音が流れた

り、映像の準備が遅れたりすることはありましたが)終わることができました。終わった瞬間私たちは達成感に満ち溢れていました。ここが私たちICT Labの配信の原点といえる行事だったのです。

ということが難しく、運動場での様子を全クラスに配信することになりました。本格的に配信に力を入れ始めたのが慶進祭からなので、配信をするのは二度目となります。慶進祭での反省も踏まえて生徒会と連携をとりながら配信の企画、準備をしていきました。

準備はやはり大変で、前日や当日の朝にマイク、カメラ、スピーカーの配線などをやっていたきました。慶進祭の時と同じようにカメラは3



▲前列右より小田村奏吾さん、小出琳太郎さん、後列右より若松優也さん、高椋優気さん、伊藤岳さん

台体制で行きました。実行委員のみんなに協力してもらいながら、カメラを回し、その3台のカメラをエクステンダーを通してパソコンに入力し、映像を切り替え配信していきましました。

慶進祭から大きく変わった点としては、音と配信の環境です。慶進祭では、音に関しては専門の業者の方がセッティングしていたのですが、体育祭では自分達でマイクだったり、スピーカーカーだったりの設定配置をしていきました。マイクは本部から運動場で実況や連絡用に使うものの他に、運動場でのオーディエンスからの拍手や歓声などの雰囲気は伝わるように環境音が入るマイクも設置しました。また、慶進祭と違って体育祭は外で行われたので砂が飛んだり、風が吹いたりする可能性もありました。ですので、マイクパスを運動場に持ってきて、その中にパソコンやATEMなどを置いて、全クラスへと配信しました。

全体としてはそこまで大きなトラブルはななくいい感

じにできたのではないかと
思います。

「卒業生を送る会」

高橋 優気

送る会の実行委員には「ad」にも所属しているメンバーが多かったため、今回は配信と同時に演出も一部「CT」adが行いました。去年と同様、在校生がオンラインで参加する形の会になりましたが、去年よりも配信のクオリティを上げようと考えました。

新しい取り組みとして、①カメラマン用Medにマルチビューを流すこと、②プロジェクターにATEMの映像をながすこと、③アリーナ備え付けの音響機材の背面をいじって音響・映像を拡張することをしました。

①についてはほかのカメラがどんな映像を撮っているか、今どのカメラの映像が使われているのかがわかるようになりまます。これによって、カメラマンがよりオペレーションをしやすくなりましました。配線段階では②をできるように配線をし

ていきました。しかし、トラブルが続出し、実現まではたどり着けませんでした。③をすることによって、通常より多くの映像、音声が入出力でき、外部につなぐ機械を省略することができました。コロナ対策もあり、マイクを過去最多の6本使えるようにしたことも今回新たにできたことです。

今回の配信準備では学年末テストが直前まで長引いたり、準備日のスタツプが不足したり、重要なケープルが断線したり、卒業式の準備と被ったりと、トラブルが多発して、予定よりできなくなるものが多くなりましました。しかし、どこがミスをしやすいのか、準備に時間がかかるのを知ることができたため、次回からの配信に大きく役だったと思います。次回の大きな配信予定は慶進祭。業者が行うライブさながらのハイクオリティな配信ができることを期待したいです。

「ICT活用コンテスト」

伊藤 岳

やまぐち高校生「ICT活用コンテスト」は、山口県が主催する県内と高校生による「ICT」の活用法の素晴らしさを競う大会となっております。僕たちは自分達のスキルアップと校内のさらなる「ICT」活用を目指して参加しました。初めはざっくりとした案だけだったので、ワークショップに行つてすごい不安でした。しかし、自分たちのアイデアの形が、次第に魅力的になっていく様子を感じることができ、面白かったです。ワークショップではデザイン思考について学びました。これはもともとデザインナーの人たちがデザインを行う過程で使われるものですが、それを一般の企画・進行にも応用しようといったものでした。僕はデザイン思考を導入しても変わらないだろうと疑つてかかったのですが、実際にやってみると今までよりも面白く、突飛な企画の割には、しつかりとビジョンにつくりあげることができて、次回から導入しようと思ひました。僕たちは「~~ス~~維新D計画」と題して、SO作戦というのを考えました。こ

のSO作戦とは、現在校内でアナログで行われている作業（物品の借用や本の貸出）などを全てORコードを使って、デジタル化するというものでした。このSO作戦を行うことで手書きでかかっていた手間がなくなり、データの管理が容易化し、使用する上でたまったデータベースを活用することができまます。このSO作戦の一番の魅力はコストが非常に低いということなんです。実際にシステムを作つてみたのですが、Google formやGoogleスプレッドシートと学校でみんなが使つているiPadに標準搭載してあるショートカットを使用するのでシステムのコストはかかりません。

このような「~~ス~~維新D計画」はコンテストのDXチャレンジアイデア部門で2位という好成绩を取ることができました。このコンテストは僕にとって、仲間と一緒に締切の1分前まで頑張つたよいい思い出になったと思ひます。これからは実際に学校に導入できるように頑張ろうと思ひます。

中高一貫コース1年生(15期生)におけるFeelnoteの活用についてインタビュー!



進学羅針盤

現在、慶進中学校・高等学校では、これからの「新しい学び」の形としてiPadやタブレットを用いたICT教育を推進しています。また、授業中だけでなく各自が自分のデバイスを活用して自分の学習スタイルに合った様々な学習アプリを見つけ、主体的に学習を進めているようです。今回の『進学羅針盤』は、そんな生徒たちのアプリの活用状況を見てみましょう。みなさんはどうでしょうか?せっかくのデバイスをきちんと勉強に役立てていますか?「まだ」という人は、友達や先生方に聞いて、ぜひ積極的に取り組んでみてください。

Feelnote

「Mission 国語×新聞×キャリア」

Q. Feelnoteを使ってどのような力が付いたと思いますか?

この1年、文章を共有するFeelnoteの特性が、私のあらゆる意識を変えてくれたように思います。今から、そのうちの2つの意識変革を紹介します。

1つ目は、文章量に指定がない課題のもと、誰かに伝えたいという気持ちが強くなったことです。過去に何度か、オンラインで外国人と話したことがあり、彼らの言葉を引用してFeelnoteに書いたことがあります。新聞の感想を書く課題だったので想像以上に共感するコメントがあり、ニュースを他人事としないで捉えることが私のスタイルになりました。それ以来、ニュースの話題を家族と語り合うことが増えたような気がしています。

2つ目は、新たなことに挑戦しようという意気込みが湧いてきたことです。外部大会の出場報告をする仲間の文章を読んで、同級生でここまで頑張れるのかと何度も刺激をもらいました。私自身も今、外部大会に挑戦しており、いつかFeelnoteで発信できたらと思っています。

毎週のように出される小さな課題は、取り組み次第で自分や仲間の日常にちょっとした変化をもたらすことができます。何かを「伝える」ということ、その楽しさを将来に繋げていきたいです。

下村七海さん(中高一貫コース15期生)

Q. Feelnoteを使った取り組みについて教えてください。

中高一貫コース1年生は、読売中高生新聞を毎週読み、気になった記事の要約と感想を打ち込む活動を行いました。記事の内容を正確に読み取った上で文章を要約する力を養うことや、興味関心の幅を広げることを目的に取り組みました。Feelnoteでは自分が打ち込むだけでなく、同級生の投稿を見たり、コメントしたりすることが気軽にできるので、時には同じ記事でも感想が大きく違っていたり、自分の記事に対して同級生から異なる視点から意見が書かれたりすることもあり、自分の考えや意見を深めることができました。また、学期末にはまとめとして自分が作成した複数の投稿を一つのテーマに絞って選択して、ポートフォリオに仕上げることをしました。まとめる作業の中で自分自身も気づかなかった自分を発見する生徒もいました。

河村真二先生(国語科)

Quizlet 単語カードを電子化、自分で作成、そして共有!

単語カードを使って英単語や漢字、社会の用語を学習したことはあるでしょうか。表に英語、裏に日本語の意味を1枚1枚書いて、リングでまとめるあれです。その作成、管理、学習をアプリ上で行うことができるのがQuizletです。分からないカードにマークをつけたりテストを受けたりすることもでき、効率よく学習することが可能です。英単語の読み上げも行ってくれるため、従来の「見る」だけの単語カード学習ではなく、「聴きながら」覚えるということも可能です。

慶進では英語の単語帳や例文集をQuizletで作成し、日々の学習に活用しています。数年前から導入したのですが、今年の中学校1年生では新たな活用が進みました。生徒が自分で様々な教科の単語カードを作成し、それを他のアプリFeelnoteで他の生徒と共有し、互いの学習を助け合っています。国語、社会、理科など英語に留まらず、定期テストや小テストの前には様々な単語カードを互いに作り、共有し皆で協力学習を進めています。

～中学校1年生にアンケート～

・覚えてないものと、覚えているものを区別でき、覚えてないところを中心に学習することができる。また、クイズ形式で学習できるため覚えやすい。

・自分で学習セットを作ることができるので自分に合った勉強ができる。

・他の人が作ったタスクで勉強ができるため、色々な教科で活用でき便利。

・ピンポイントで自分のしたい学習ができるため、テスト勉強に使いやすい。

キクタン中学校 Week 3

※ 最近4名のユーザーが学習しました

教室内のゲーム

Live

クイズ

単語カード

学習

筆記

音声チャレンジ

テスト

マッチ

グローバル



Quizletの画面。単語カード機能やテスト、中にはゲーム感覚で覚えられるものもあります。

MONOXER モノグサについて藤野先生に聞いてみました。

Q・・モノグサで何ができるのですか。
まとまった範囲の英単語などを様々な問題形式で学習できます。学習計画をもとに進めるので、毎日コツコツと学習することができます。

Q・・モノグサの良いところは何ですか。

問題形式が簡単なもの（選択式）から難しいもの（記述式）に変わっていくので、段階を踏んだ学習ができます。そしてA-1が自分の苦手なものなどを適切なタイミングで提示してくれます。忘れたころに復習できるので、自然と知識が定着していきますね。

Q・・モノグサを使ってみてどうですか。

ゲーム感覚で学習することができて楽しいという意見もありますね。もちろん毎日継続しなければならぬので、「きつい」と感じている人もいるようですが、そんな人こそ毎日の学習習慣をつけるのに適していると思います。やり切れば知識が身につけているところというところに達成感をもつこともできますね。

Q・・英単語以外にも使えそうですか。

英語では、例文の学習を並べ替え問題やリスニング形式で学習しています。また、歴史の用語や古文単語などでも活用されています。タスクがあまりに多いと毎日やるのが辛いので、先生も、みなさんがやるべきことを絞ることが大切になりそうです。

Q・・大学入試では読解力や応用力が重視されてきていますが、知識はそもそも必要なのですか。

間違いなく必要です。しっかりとした知識という土台をもった上で演習するから入試に対応する力が養えます。基礎を疎かにしていると痛い目にあいますよ。モノグサなどをうまく活用し、効率よく勉強しよう！

☆ 慶進生は他にこんなアプリも使っています！

授業だけでなく、各自の勉強スタイルに合った学習アプリを利用して主体的に学習を進めている生徒のみなさんの声を紹介しましょう。

先日生徒のみなさんに回答してもらいました「学習アプリアンケート」の結果を見てみると、コースや学年によって、学校で利用している『MONOXER』『Quizlet』をはじめ、自分で見つけたものや友だちに教えてもらったものなど、様々なアプリを上手にを使って学習に役立っていることがわかりました。学習アプリの利点は、学校の休憩時間などのすきま時間を有効に利用できるところです。『MONOXER』『Quizlet』以外にも、『CASTDICE 英単語帳』（英単語）、『mikan』（英単語）、『クアング』（数学）、『ALCO』（英語）、『漢字検定 漢検トレーニング』（漢字）などがありました。無料で利用できるものもありますので、いろいろな種類のアプリを試してみて、自分に合ったものをダウンロードして活用してください。

○ 実際にアプリを使っている慶進生の声です。

『CASTDICE 英単語帳』

Oさん「紙だと辞書サイズになるような膨大な単語帳を網羅しているので、志望校の過去問に出ていた単語のデータに基づいた単語帳を作れる」

『mikan』

Oさん「英単語を四択で覚える。手軽にできるからやってみて苦ではない。楽しい」

『Duolingo』

Sさん「毎日1回は問題を解くと、バッチみたいなものが毎日もらえるので、続けたいという意欲が出る」

『漢字検定 漢検トレーニング』

Tさん「できた時、思った以上にキャラクターに褒められて、嬉しくてやる気が出る」

他にも『マナビジョン』『英語の友』『英単語HAMARU』などが挙がっています。また、どんな学習アプリが欲しいですか？というアンケートには「楽しいもの」「空き時間に取り組みやすいもの」「自分で問題が作れるもの」「部活やスポーツの向上が望めるもの」「理科・社会が強化できるもの」「自動的に学習計画を立ててくれるもの」などといったコメントが寄せられています。今後も効果的なアプリは積極的に取り入れて効率よく学べる環境を自分で作っていきましょう。

同期の慶進

SERIES XIII The Talk with schoolmates...



原 一颯

山口大学
医学部医学科

下野 優太

大阪大学
経済学部

杉山 高康

東京大学
理科一類

永尾 亮人

九州大学
農学部

藏重 光希

横浜国立大学
都市科学部

山本 颯人

東京工業大学
環境・社会理工学院

田中 心琴

千葉大学
国際教養学部

田中 瑞希

岡山大学
医学部医学科

小島 千和

九州大学
文学部(国際コース)

村田 結花

九州大学
芸術工学部

「学びの風」を吹かせよう。これが13期生の学年テーマでした。「学びの風」という言葉を考案したのは西山先生です。(さすがセンスがいい)名は体を表すといいますが、13期生はこの言葉にふさわしい学年になったなと感じています。負けず嫌いな人が多く、学習に対して貪欲に取り組み、わからないところはみんなで検討する姿が印象的でした。「学び」は日々の学習活動はもちろんですが、生活の中にもあふれています。学校の教科学習以外で学びを深めることができるのも13期生の良いところです。3年連続KSアワードを獲得した慶進祭や、中学校1年生で銀賞・銅賞を獲得した合唱コンクール、コロナ禍で中止となった海外修学旅行に代わり自分たちで企画・立案まで行った修学旅行…さまざまな行事や探究活動とにかく全力で取り組み、慶進に前人未踏の記録を残してきました。

私がこの6年間で求めてきたのは何事も自ら考えること、自ら実行すること、自ら振り返ることです。理想としていたのは担任がいなくても成立する学級・学年でした。中1から高3までの6年間で、少しずつ自分たちで決めることを増やしていき、最後には細かいことも含めて本当に何もかも自分たちでできるようになったなと感じていました。成長をうれしく感じながらも、頼りにされることが少なくなる寂しさも感じたものです。13期生は私が思い描いた理想の6年間を過ごしてくれたと思います。

さて、13期生はこの4月から慶進を巣立ち、それぞれに新しいステージが待っています。これからの人生でも多くの「学び」があることでしょう。私自身を振り返っても大学生活で学んだこと、社会人として学んだこと、そして13期生から学んだこと、たくさんあります。きっと13期生の皆さんはさらに大きな「学びの風」を吹かしていくことでしょう。風が吹けば桶屋が儲かる。学びの風が吹けば、何が起ころのでしょうか。これから13期生が起こすパタフライエフェクトを大いに期待しています。

川尻 凌平

Q・慶進中学校・高等学校 6年間の思い出は何ですか？

村田 私は中学3年生の時のスポーツフェスティバルが思い出に残っています。私は副団長としてみんなをまとめる立場にあったのですが、仲間の協力もあり大成功に終わらすことが出来ました。助け合いというものを学べたいい行事でした。

田中瑞 高校2年生最後の修学旅行ですかね。コロナの影響で、本来行く予定だったシンガポールがなくなつて、正直何ができるんだろう、どう楽しめるだろうと思つてた修学旅行が、蓋を開けてみれば一番の思い出になりました。実行委員の人をはじめ、いろんな人たちが、最初から最後まで自分たちで計画し、盛り上げようとした努力が実を結んだ行事だと思えます。

永尾 中学3年生のオーストラリア留学です。知らなかった景色、文化、空気への感動を友達と共有しながら過ごしたあの2週間が私の価値観にいい意味で大きな影響を与えてくれました。

藏重 セカンドステージの時に参加した英語系の大会です。先生方にサポートして頂きながら慶進の中高一貫コースの同級生とだからこそ共に高め合い頑張れたと思うので思い出として強く記憶に残っています。

小島 入学してすぐにあった宿泊研修ですね。人数の少ない小学校から慶進に来たので、友達ができるか不安でした。13期生みんなでレクリエーションをやったり、校歌を歌つたりして交流を深めることができて、入学当初の不安がなくなり、このメンバーで6年間支え合つて頑張ろうと思えました。

Q・セカンドステージの途中からClassroomやFeednoteなどICTが徐々に学校生活に取り入れられるようになりました。ICTを導入したこと学校生活はどのように変化しましたか？

田中瑞 当たり前のことですが、これまでできなかったことができるようになりました。先生方とのコミュニケーションがとりやすくなったのは大きな変化の一つと感じています。メッセージ機能の良いところは、連絡がつく時間も場所も問わないところで、これまでその制約によって、伝えるのに何日も掛かったり、相談のハードルが高かったものが、気軽に、時短でできるようになりました。私も高校時代、川尻先生に何度もFeednoteで質問したり、齊藤先生に大学の過去問をデータで送ってもらつたりしていました。

村田 物事がすぐに調べられるようになり学校生活が快適になりました。

永尾 学校における休校やイベントなどの情報がプリントなどを介さず迅速に伝わるようになったので、何かがあるか分からず困惑するといったことがなくなつたと言ふ点で良い利点をもたらしたと思います。

藏重 コロナ禍での休校期間中も授業を継続して受けたり担任の先生とFeednoteで気軽に連絡が取れたりしたことは助かりました！登校できるようになってからは気になったことがあった時、すぐに調べ物ができるようにになったことは便利だ

なと思えました。

小島 ICTが導入されてしばらくしてからコロナによる休校が続いたので、オンライン授業に迅速に対応できたと思います。また、Feednoteを通じて先生方との連絡が取りやすくなったので、とても便利でしたね。

Q・後輩へのメッセージをお願いします。

村田 これからきついこと、辛いこと、沢山あると思いますが、自分が決めたことは最後までやり抜くという姿勢を大切に頑張ってください。

永尾 文化祭や体育祭、授業での発表に至るまでの学校行事に友達と全力で取り組んでください。今ではその真面目さ、誠実さが最終的に受験を乗り越える底力を築き上げるのかなと感じます。前を向き続けて、がんばれ!!!

田中瑞 先輩方に何度も、『受験は思っているよりずっとしんどいよ』と言われていたのに、私は共通テストまでかなり楽しく受験生活を送っていました。それがツケとなったのか、共通

テスト後は毎日辛い日々で、特に二次試験直後は一番得意な科目で大失敗したという、人生でも類を見ないほど苦しい思いをしました。なので、受験勉強はもう2度としたくないけれど、受験を乗り越えないと見えてこない未来があり、逆に受験を経たからこそ身に付けられたことはたくさんあったと今実感しています。毎日がむしろに走り続けているだけだと思つていても、いつか、自分のしてきた努力が大きな軌跡を描いていることに気付ける日が来るはずですよ。今は先が見えなくて不安でも、そのいつかを信じて、とにかく努力を続けてください。

藏重 コロナ禍でやりたいことが制限されることも多いと思いますが、悔いの無いよう全力で高校生活を楽しんでください!!!

小島 慶進での6年間で皆さんにも大切な思い出がたくさん出来たと思います。先生方や友達、そして家族への感謝の気持ちを忘れず、勉強に部活に頑張ってください。私たちが卒業した後の慶進を今以上に輝かせてください。

令和4年度

|大|学|合|格|実|績|

|中高一貫コースの主な合格先

北海道大学	1名	東京大学	1名
東京工業大学	1名	千葉大学	2名
大阪大学	1名	岡山大学	2名(1)
広島大学	3名	山口大学	11名(9)
九州大学	3名	自治医科大学	1名(1)

()は医学部医学科 令和4年3月27日現在
 ※詳しくはHPをご覧ください。 <https://www.keishin-ug.edu.jp>

|お|知|ら|せ|

■令和4年度 行事予定

6月	学校説明会①
7月	学校説明会②
8月	学力診断テスト
10月	入試説明会①
11月	入試説明会②

慶進でお会いするのを楽しみにしています。

La photo de Keishin iPadのあるいつもの教室



中学生全員がiPadを持つようになって、もう3年が経ちました。初めは、iPadを使うことを意識する日常でした。しかし、iPadを導入して3年経った慶進中学校の日常の中で、それは鉛筆や筆箱やノートと同じ文房具の一つになりました。生徒たちは、その文房具を使いこなし、情報を収集し、一つのドキュメントを協働で編集し、そして自分自身の書いた小論文を仲間と紹介しあいます。中学校1年生が書いた小論文のテーマは「日本は選挙の棄権に罰則を設けるべきか、否か」。難しいテーマもiPadを活用し、仲間と協働すれば、それぞれが小論文にまとめることができる。そんな授業がいつの間にか慶進の日常になりました。



第15回 小さな本箱

杉本 茜先生のおすすめ

チルドレン

この本は「バンク」「チルドレン」「レトリバー」「チルドレンII」「イン」の5つのショートストーリーで構成されていて、それぞれの話に共通した人物(陣内)が登場し、彼らの日常的な出来事が描かれています。背景となる年代や語り手がその都度代わりますが、そのすべての話が繋がっていて、それぞれを短編としても、一つの長編としても楽しめる作品です。お話そのものは、(伊坂幸太郎さんの作品のほとんどがそうなのですが)読み進めていくうちに全体像がだんだん見えてきて、すべて読み終えるとそれぞれの題名の意味が「なるほど」と思えてくるような、不思議な爽快感を感じることがができます。

私が一番好きなのは、「バンク」というお話で、仙台の大学生・陣内が閉店間際の銀行で武装強盗に巻き込まれ、人質になるという設定です。ここでは陣内に捕まりしづしづ銀行に同行させられる友人の鴨居が語り手となってお話が進んでいきます。そもそも陣内という人物は「ほとほと口の減らない奴だな」と、

伊坂幸太郎

鴨居から呆れられるほどのおしゃべりで、ただ口数が多いだけではなく反抗的にかつひねくれてます。直情径行にして何事にも断定的。過剰なまでの自信家で妙なたとえ話で相手を煙に巻くのを得意とする変人です。しかし、陣内は不思議と周囲の人に好かれ、彼の言葉や行動が周囲の人たちに影響を与え、日常に小さな奇跡を起こしてくれます。「バンク」の話に戻りますが、もちろん陣内は銀行強盗にも前述のような性質を遺憾なく発揮します。それが事件の解決につながるのか?つながらないのか?は、ぜひ読んで確認してみてください。

悲劇というよりは、喜劇の要素が強いですし、何より「救い」のある話だと思えます。ばかばかしいなと思う陣内と他の登場人物とのやり取りや、キャラクターの首尾一貫した人間性のぶれなさ、何よりも文章が力チカチカとしたものではなく洒落た表現が多く読みやすい魅力的な作品です。